
一目惚れだなんて嘘

こをり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一目惚れだなんて嘘

【コード】

N2950N

【作者名】

こをり

【あらすじ】

突然ぶつかつた知らない後輩に暴言を浴びせられ！？
なんやかんやで初彼女（？）できました

ただ単に階段を急いで下りていたんだ
今の時間でも危ういのこのままでは幻の菓子パンが先輩たちの手に渡ってしまう

ああ！もう下りずに飛び降りてしまおうか！

「あ、と、はんぶ・・・う、うわあ！」

「え！？・・・きゃあ！」

ああ・・・もう菓子パンは諦めた方がよさそうだとにかく今は謝らなきゃ！

「ごめん！急いでて・・・」

慌てて謝ると倒れていたのは女子名前なんて知らないけど100%こつちが悪いからともかく謝る！

「大丈夫？本当にゴメンナ？」

「痛てーじゃあねーか！クソが！！ふざけんじゃねえよ！！」

・・・え？

た、確かに悪いのは俺んだけどここまで言われなきゃいけないのか？

しかも後輩の女子にこんなボロクソに言われたの初めてなんですけど・・・

「チツ！なにが急いでるだよこつちだつてなあ・・・」

「な、なんだ・・・急に黙るなよ」

「クソ・・・クソッ！」

何だこの状況？周りに人がいないからまあ良いけど泣かれるのはちよつと

いや、結構困る

「ど、どうしたの？どつか痛かった!？」

「・・・彼女なんて作ってんじゃねーよ!!！」

馬鹿でかい声とともに彼女は走って逃げてしまった

え？彼女？・・・イマイチ理解できなかったけどちゃんと謝りに行ったほうがいいよな？

ネクタイの色で2年ってことは分かったし一つ一つ見ていくか・・・ってかどつかで見たことある顔だな

「あのさーこのクラスに髪長くて泣き黒子のある女の子いない？」

「え〜？誰だかわかるう？」

「ん〜・・・あ！もしかして！」

「知ってる？」

「このクラスの加賀美かがみちゃんじゃない？ほら！あそこに座ってる」

遠くの隅のほうを見るとあいつは座っていた

めっちゃふて腐れてる顔で

「なあなあ加賀美ってどんな子なんだ？」

「どんな子って・・・暗いしい睨むしい正直お勧めはしないなあ」

暗い？まあ睨むは分かるがあんなに大声で叫べるんだから暗いなんていわれてもピンとこない

2人に礼を言っただけ加賀美の所に行くと思いつきり睨まれた

この子族かなんかに入ってるんじゃないの？可愛い顔で睨まれてもなあ

「え〜と加賀美ちゃん？」

声をかけると座ったまま方向だけこちらに向けた（ビビった！）
ギャラリーが集まる中加賀美は盛大に舌打ちした

「か、加賀美ちゃ」

「俺が・・・俺が一番初めにお前を好きになっただんだ！

なのに彼女なんて作ってんじゃねえーよ！！

周りからお前の好みのタイプさりげなく聞いて・・・

短い髪伸ばして眼鏡かけて・・・フリーでいたのに

勝手に彼女なんかつくんじゃねえーよお」

「え？ええ？・・・俺彼女いないよ？」

「嘘だ！お姉ちゃんまだお前のプリクラ張ってたし・・・指輪つけてたし」

「・・・あー！お前京さんの妹か！？」

京さんとはこいつの姉で俺の・・・

「俺のほうが先だったんだ！」

「分かった分かった！つてか俺誰とも付き合っていないよ？」

「・・・」

「嘘じゃないって！睨むなよ！」

「でも姉さん、プリクラと指輪・・・」

「たぶんそれ・・・俺の兄貴」

この瞬間加賀美と周りのギャラリーが一気に凍りついた
いや、俺は何も悪くないよな？

「別の高校に双子の兄貴がいんだよ」

「………嘘だ」

「今日ちゃんと帰ってプリ見てみ？口ピしてっから」

ほれ、と言つて自分の口を見せ穴が無いのを確認させる

加賀美は顔を真っ赤にしながら行き成り立ち上がった（おおっ!？）

「私はお前が好きだ！口ピしてないお前が好きだ！付き合って!」

「……俺は一人称が俺な子は嫌いです」

「え……あ」

「言葉使いが悪い子も座ってるのに股を開いてる子も嫌いです」

そう言つと若干足を内股にして深呼吸をした

「私は先輩が好きです！目の前にいる先輩に惚れました！付き合つてください!!」

「俺は君の事をまったく知らない、それでも？」

「私が先輩の事知ってます！私の事はこれから知ってください!」

「こつ見えて恋人を作るのは初めてなのでどうすればいいのか分かりません」

「私も初めてです!」

「でわ初心者らしく今日は一緒に帰りましょう」

「もちろんですっ!」

今日は家に帰ったら兄貴に報告しよう

すっごく怖くて可愛い彼女が出来ましたっ

(後書き)

言葉使いが悪いのは私です(え)

とりあえずこんな恋がしてみたいなー・・・なんてね

あ、気がつきました？

加賀美〓鏡

京〓鏡

なあんでどうでも良いウラ設定です(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2950n/>

一目惚れだなんて嘘

2010年10月14日18時20分発行